

普及活動情勢報告（平成28年11月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

キュウリ部会環境制御技術勉強会 ～炭酸ガス施用で収量アップを目指そう～



熱心に聞き入る生産者

J Aとさしキュウリ部会では、環境制御機器を導入した生産者が多くなったことから、毎月勉強会を開いています。10月27日は、農業技術センターの高橋施設野菜担当チーフを講師に、生産者21名が参加しました。

勉強会では、キュウリのこれまでの試験結果について説明があり、農業改良普及課からは、炭酸ガス施用の具体的な方法や注意点などについて情報提供をしました。

生産者らは熱心に説明を聞き、循環扇はずっとまわす方が良いのか、炭酸ガス施用を始めたが熱風で萎れるがどうすればよいか、など多くの質問がなされ、炭酸ガス施用に積極的に取り組んでいこうという姿勢が伺えました。

次回は、現地ほ場において、生育を見ながら行う計画をしています。

J Aとさし青ねぎ部会でネダニの物理的防除の実証を始めました。

～青ねぎ苗の温湯処理技術の現地実証～



温湯消毒中のねぎ

農業改良普及課は、青ねぎで大きな課題となっているネダニ類対策として、ユリやラッキョウ等で確立されている温湯処理技術を、夏ねぎで実証してきました。その結果、温湯処理による傷みもなく、慣行区に比べ生育・収量とも良くなる傾向が見られ、実証農家からも年間を通して他の部会員にも試してもらったらどうかという意見が出ていました。

そこで、3戸の農家で実証するため、10月27日に苗を処理し、順次定植しています。

また、農業技術センター昆虫担当の協力を得て、栽培前後のほ場中のネダニの有無や、温湯処理による寄生虫の防除効果等も調べることになりました。農業改良普及課では、生育調査を実施し、温湯処理技術の効果について、総合的に判断していきます。

新規就農者との面談

～頑張る！新規就農者～



新規就農者との面談

土佐市では、関係機関が連携し、新規就農者の経営安定を図るための面談を実施しています。11月9日、県農業公社、農地・担い手対策課と農業改良普及課も同行し、イグサを栽培する新規就農者と面談を行い、栽培技術や経営内容の聞き取りを行いました。

そこでは、両親や祖父から、栽培技術や加工技術、経営内容について学んでいる状況や、取引先への訪問で、土佐市のイグサを手作りチラシ等でPRするなど積極的な取り組みも確認されました。

農業改良普及課は、今後、勉強会などの開催も含め、新規就農者を支援することを計画しています。

促成シシトウ現地検討会
～シシトウでの炭酸ガス施用効果は？～



炭酸ガスの施用効果を説明中

J Aとさしシシトウ部会は、定例の現地検討会を11月10日に開催しました。今回は部会で初めてとなる炭酸ガス発生装置導入農家ハウス（以下導入ハウス）でも行い、炭酸ガスの施用状況を実際に確認しました。農業改良普及課は、導入ハウスと別の農家ハウスとの炭酸ガス濃度比較の直近データを示し、炭酸ガス施用で期待される効果などの情報提供を行いました。

生産者は炭酸ガス施用ダクトの設置状況を確認したり、導入農家の感想を聞いたりし、検討会終了後には機器をすぐ導入したいという声が聞かれるなど技術への関心が高まったようでした。

今後、農業改良普及課は、導入ハウスの収量・品質調査を行い、炭酸ガス施用効果を確認するとともに、栽培環境の調査などもあわせて行い、施用技術を検討していきます。